ひ　引き出しをたくさんつくる

まちづくりプランナーとして、まちの課題に向き合う場合には、とことん考え抜くという気持ちでいなければならない。そもそも課題については、通り一遍のものをなぞるのではなく、「課題は、その本質が何かを見極める」必要がある。その場所、その時の本質的な課題は何かを深掘りしなければならない。そして課題に対して目に見える成果を導くためにはどうすれば良いかとなると、さらにつっこんで考えなければならない。

考えるといっても、自分の脳だけで考えるのには限界があるので、他の人の試行錯誤の成果を上手に「盗む」ことも必要になる。ただ「盗む」のは「真似をする」とは違う。目の前の課題に対してどのようにアプローチするかとか、アプローチする際に何に留意するかといったツボを「盗む」のであって、やり方そのものをコピーしてもうまくいかない。

それに「盗む」というのは、あらかじめその情報が盗むに値するかを見極める力が必要だ。せっかくの情報であっても、課題に引きつけて価値を理解できなければ単に目の前を通り過ぎるだけになる。そのためには多々ある情報の中から可能性のあるものを拾い上げ頭の中にとどめておく「引き出し」が用意されていなければならない。それもたくさん。

盗むに値する情報は、目の前の課題にストレートに応えるものとは限らない。むしろそれは少ないかもしれない。いろいろな引き出しに溜まったものが、あるきっかけで互いに関連づけられひとつの方法としてかたちになってくる。そういうことの方が多い。だから引き出しは多く用意しておかなければならない。

どうすれば頭の中の引き出しを増やすことができるのか。それは好奇心を豊かにすることと関連するかもしれない。これはいったい何なのだろうかとか、これは面白いとか。こんなことをもっと知りたいということもあるだろう。素直にこれには感動したというのも良い。それらが頭の中の引き出しになり、関連する情報が頭の中にどんどん蓄積されてくる。一方で本質的課題に行き着く間にいろいろ考えたことも重要な引き出しになる。そうしておけば、シャワーを浴びている瞬間とか、寝ている間にとか、思わぬ時に互いに関連づけられる時がやってくる。